

『何足の草鞋?』

久保田 享



「あれ、この道、明るくなりました?」

久保田 享 馬場 慶太郎

あれ、この道、明るくなりました? 現在御岳山では、ナラ枯れによる樹木の伐採が進められています。特に、武蔵御嶽神社の境内地や参道に生えているナラの木々が影響を受けており、この伐採にかかる費用はすべて所有者である神社の負担となっています。ナラ枯れは以前の武州みたけでも紹介した通り、「カシノナガキイムシ」と呼ばれる虫が運ぶ真菌によって水の吸上げを阻害し木を枯らしてしまう病気であり、感染が進むと倒木の危険性が高まります。そのため、安全対策として、伐採が急務とされています。

御岳山は多くの参拝者にとって信仰の対象であり、観光地としても重要な場所です。そのため、自然環境の保護と安全の確保を両立させることが求められています。ナラ枯れによる樹木の伐採は、今後の参拝者や登山者、地域住民の安全を守るための重要な一歩です。また、このような取り組みを通じて、御嶽神社の鎮守の森ともなる、御岳山の自然との共生に今一度着目し、持続可能な地域づくりを進めていくことが期待されます。



危険木として伐採した薪を薪にした

私がこの山に帰ってきて早20年が立ちました。神主で神社に奉仕し、家に帰りお客様をもてなし、観光について会議に参加し、消防団員として人命救助を行う。そんな私は「何足の草鞋」を履いています。今回は私が奉仕する神社の太々神楽についてお話ししたいと思います。神社に伝えられる神楽は江戸時代に江戸真崎稲荷より伝わったとされています。面神楽一三座、素面神楽が三座あり、東京都の無形民俗文化財に指定され、それぞれ口伝により継承しています。その中でもすでに失われた神楽もあり、現在では神楽奏上が少なくなり舞の伝承だけではなく、楽屋の演奏も危機にあります。悲しい事に神社に申し込まれる神楽だけでは数がこなせず、平成二十二年から「夜神楽」と称し、六月から十一月の第三日曜日午後八時から神楽殿にて無料で公開しております。神楽の伝承を目的とした背景があるのですが、それでも継続はとて困難だと思えます。さて神楽を舞うにあたり、先ず、最初に習うのは奉幣という翁が四方を祓い清める舞です。だんだん上手に舞えるようになると次の神楽を習います。習う神楽によつては複数人で所作を合す舞や、また一人でも動きが激しくつらい舞があります。さらびやかな装飾が施された重い装束、お面を付けての狭い視界、そして神楽の中では「胴作り」と呼ばれる中腰の姿勢を保ちずり足での移動と、かなりの運動量となります。



口伝での伝承なので先輩の意見は絶対です。その中で良くある事が、甲先輩が「こーしろ」と言えば乙先輩が「そーじゃねえ」、丙先輩が「いやそこはこーだろっ」と言った具合に三者三様になる事があるのです。その場合は大変です。甲先輩が見てる場合は甲流し、乙先輩が見てる時は乙流しになってはなりません。では両方の先輩が見てる時にはその中間で踊らなければなりません。そうこうして回数をこなす内に、自分がやりたい神楽はあの先輩が上手いから真似てみようとなります。そうして少しずつ上達していくのです。私自身まだまだ下手で踊れず、先輩にこはとうでしたっけ? などと聞くことも至るまで。江戸時代に伝わり今に至るまで、様々な形をかえ、現在に残る神楽はもはや御岳山流神楽と言っても過言ではありません。昨年は神楽が伝わったとされる真崎稲荷(※石瀨神社)の1300年祭が行われ、その中で当社の神楽も奏上されました。僧越ながら私も神楽を舞わせて頂いたのですが、川からの心地よい風と眼前に望む東京スカイツリーとビル群が時の移ろいを感じ、悠久の時を経て現代で原点に帰るという思いで胸が高鳴りました。※真崎稲荷は大正十五年に石瀨神社と併合されました。



御岳ビジターセンター

ムサくんだより

「春を告げる使者」

春を感じるものには何かがあるのでしょうか? ウメやサクラのお花、ふきのとうの天ぷらに、はたまたスギの花粉... みなさんそれぞれに春が来たなあと感じるものがあると思います。三月になつても御岳山の山上はマインナスの気温が続くこともあり、春というにはまだまだ寒いですが。

ナガラレタゴガエルというカエルをご存知でしょうか? 毎年その寒い頃、ロックガーデンの沢の中では、ナガラレタゴガエルたちのいわゆる婚

活が始まります。

ナガラレタゴガエルはつめたい沢の水の中に集まり、オスとメスが出会い、卵を産みます。集まるカエルの数を数えながら歩いたら、なんと一〇〇匹を超えていたこともありま



ナガラレタゴガエル

が、水の中なので聞こえません。そのため、なかなかその存在に人は気づかないのですが、この寒い時期に活動をしているナガラレタゴガエルたちを見ると春の訪れを感じるとともに、なんだか私も頑張らないと励まされます。

ロックガーデンは沢治いの登山道が1.5km程続いているため、沢を眺めながら歩けます。そして同じ頃に、ハナネコノメヤコチャルメルソウなども咲き始めます。みなさまも御岳山に、春を探しにぜひいらしてください。

みたけの重忠くん

作 たいやまジロー



当社所蔵の二ホンオオカミ頭骨が東京上野・国立科学博物館で行われる特別展「古代DNAー日本人のきた道ー」に展示されます。(三月十五日〜六月十五日) 今回出展する頭骨は神奈川県愛甲郡清川村の民家に祀られていたもので、親類に受け継がれた後、当社に寄贈されました。大口真神式年祭の特別展で、清川村燻ヶ谷地区に現存する二ホンオオカミの頭骨と前肢を借用したことをきっかけに、貴重な狼の資料を後世に残すため、当社所蔵の頭骨を含めた七体が本年二月十九日、清川村重要文化財に指定されました。これら頭骨はミトコンドリアADNA解析やゲノム解析により二ホンオオカミと認定され、当社の頭骨は形態的特徴から二ホンオオカミであると鑑定されています。